

続
 とちぎの
 サムライ
 vol.26

全国津々浦々 お城めぐりの旅

忍者の城
「伊賀・甲賀」

ここ数年、城址歩きをしていると、さまざまな城と歴史に関わることになります。毎回のこと
 ですが、自分勝手に書いておりますので、史実と異なる部分があるところはご容赦願います。
 (一社)宇都宮建設業協会 木澤喜人

今はテレビや映画で忍者を扱う番組が減ってしまったようですが、代わりにコミック誌でアレンジされた忍
 者が活躍しているようです。我々世代は、猿飛佐助・霧隠歳三・服部半蔵などが縦横無尽に活躍するのを見てあ
 こがれた世代です。改めて考えてみますと、忍者の実態については何も分かっていないことに気が付き、今回浅
 く忍者について調べてみることにしました。かつて日本には49もの忍者の流派が存在したといわれ、その中の
 二大勢力といわれているのが、甲賀(こうか)流と伊賀(いが)流です。現地には、忍者の博物館・忍術屋敷があり、
 忍術を体験したり、忍びの文化を知ることができます。

さて、ではなぜこの地に忍者が生まれたのでしょうか？



「伊賀流忍者博物館」三重県伊賀市上野



「甲賀流忍術屋敷」滋賀県甲賀市甲南町

当時政治の要であった京
 都・奈良に近く情報取得がし
 やすい土地だったのと、山間
 地にあり複雑な地形の所
 だったので、隔離された場所
 でした。また、それぞれの地
 域を支配していた土豪たち
 が互いに監視し合い突出し
 た領主が出現しにくい仕組

みを取っていたので、それぞれが対等な立場で協力し合っていました。

次に、世間に忍者の存在を知らしめた出来事では、一番有名なのが「天正伊賀の乱」でした。北畠家の養子となっ
 ていた織田信長の次男・織田信雄が伊勢国を掌握すると、次は伊賀国の領国化を考えました。伊賀攻めのための
 古城の修築を始めるとこれを知った伊賀国郷土衆は、すぐさま平楽寺(後の伊賀上野城)に集まり、「完成までに
 攻撃すべし」と集議一決しました。第一次天正伊賀の乱が勃発。すぐさま忍者たちは総攻撃を開始しました。不
 意を突かれた信雄軍や人夫衆は混乱し敗走しました。翌天正7年、信雄は信長に相談もせず独断で8,000の兵を
 率いて伊賀国に三方から侵攻しましたが、伊賀郷土衆は各地でゲリラ戦を展開し、信雄軍は多くの兵を失い、今
 度も伊勢国に敗走しました。信雄が無断で伊賀に侵攻し、さらに敗戦したことを知った信長は激怒し、信雄を激
 しく叱責しました。信長は、この信雄の敗戦を受け忍者に対し警戒心を抱き、後の第二次伊賀の乱での対応策を
 より慎重に練りました。信長は、再び織田信雄を総大将に命じ今度は5万の兵で伊賀国に侵攻しました。多くの
 軍勢の前に伊賀忍者は大敗し村や寺院は焼き払われ、住民は殺害され里は壊滅状態になりました。しかし、これ
 より伊賀忍者が減じたわけではなく、多くの指揮官はうまく逃げ延びていて、ひそかに戻っていました。飛ぶ鳥
 を落とす勢いの織田軍と戦い、一度は勝利した忍者集団の存在が、この時点で国中に知られることとなりました。

次に、忍者たちの城郭についてですが、この地では突出した権力の領主が出にくい仕組みだったので、大規模・
 特殊な城はなく、ほとんどが単郭方形の小規模城館が密集する地域となりました。



中山城塞軍(1号城~6号城・伊賀市石川)



甲賀市甲南町



甲賀市甲賀町和田

滋賀県には1,300カ所の城館跡があり、甲賀市だけでも約200カ所が確認されています。古琵琶湖層からなる複雑な樹枝状地形を巧みに利用して、丘陵上に築かれているものがほとんどです。

今度は、伊賀忍者と甲賀忍者の違いを簡単に検証してみます。伊賀忍者は共同体によって組織運営を行っていましたが、意思決定は「上忍三家」と呼ばれる、服部家、百地家、藤林家の意向が大きく反映されていました。伊賀忍者は依頼があれば複数の大名に対しても忍びの者を派遣し、戦などで双方から要請があった場合は、両方の依頼に応えていたようです。伊賀忍者は依頼主とは金銭以上の関係になることはありませんでした。よって、伊賀忍者は傭兵的な感覚で活動しました。一方、甲賀忍者は「惣（そう）」と呼ばれる共同体を作り、みんなの立場は対等で、意思決定を行う時も多数決により決定し、民主主義的な運営法でした。そして、伊賀忍者とは対照的に、依頼主は特定の家にしほり、特定の主君に仕えていました。しかしながら特定の大名と運命を共にすることはなく、仕える大名が没落すると主君を変えていました。伊賀忍者と甲賀忍者は対立することもあったようですが、基本的には友好的な関係を持ち、お互い不利益になることは避けたようです。近年に創造された華々しい忍者のイメージよりは、現実的な集団だったようです。

司馬遼太郎さんの小説「風神の門」には、滋賀県湖南市の「三雲城」で育った三雲佐助賢春が、実は真田幸村に仕える真田十勇士の甲賀流忍者「猿飛佐助」であったと書かれており、その猿飛佐助が修行した場所こそが、滋賀県湖南市の「八丈岩」だったといわれています。



横から見た八丈岩



正面から見た八丈岩



三雲城展望所

話は変わりますが、先ほど記述した天正伊賀の乱の評定軍議が行われた平楽寺跡には、徳川家康が関ヶ原の戦いに勝利した後、築城の名手だった藤堂高虎を今治から伊賀・伊勢の城主として移し、本丸を30mの高石垣で囲み、それまでの筒井古城を大拡張させました。しかし、竣工直前に五層の大天守は、暴風雨によって倒壊したのと、大坂夏の陣で豊臣方が滅亡したので、徳川方には城の普請が必要なくなり工事は中止されました。現在の天守は、地元の名士が私財を投じて復元したものですが、現在も伊賀を代表する城郭として人気があります。



伊賀上野城



上野城の最大の見せ場が、高さ30mもある高石垣です。

忍者については語りつくせませんが、おぼろげにイメージしていただければと思います。老忍者は「口ばかりの術」「指図のみの術」「物忘れの術」を駆使して最後に「雲隠れの術」を使います。

動画をYouTubeにアップしています。もし、時間と興味があればぜひ見てください。

[空中散歩 伊賀上野城と忍者の城]
<https://youtu.be/9lne8901sTs>



[空中散歩 甲賀忍者の城]
<https://youtu.be/GvZej34NSlQ>

